

タキロン点字タイル 施工手順

1. 下地の清掃

- 砂・塵埃などを除去してください。

2. 割り付け

- 「タキロン点字タイル」を施工する下地面に墨出しを行ってください。
(接着剤を端部まで塗布するため、「タキロン点字タイル」端部の位置を下地に鉛筆などでかがいてください。)
- 「タキロン点字タイル」同士の継目処理を「タキシール#600」で行う場合は仕上げ代として 3mm～5mm の隙間を確保してください。

3. 「タキストロン タフスリップタイプ」の仮敷き

- 「タキストロンタフスリップタイプ」を施工するサイズにカットし、仮敷きを行ってください。

4. 接着剤の塗布

- エポキシ系接着剤の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで別容器で十分に攪拌してください。
(下地上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- 下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。
- クン山が 1/3 以下摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。

<標準塗布量>

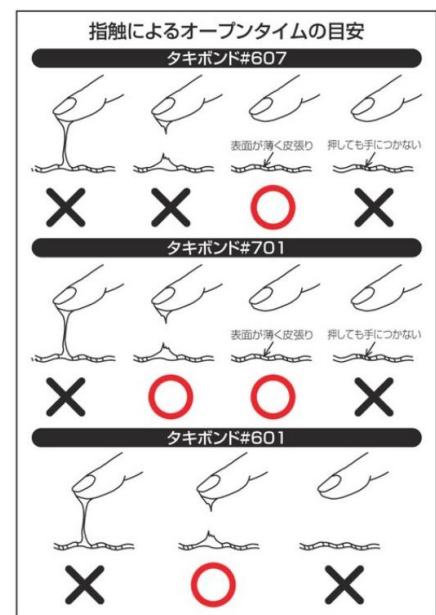
タキボンド#607	モルタル下地	300～400 g/m ²
タキボンド#701	非吸水性下地	250～350 g/m ²
タキボンド#601		

5. オープンタイム

- 接着剤を塗布した後オープンタイムを取り、張り付け可能時間内に「タキロン点字タイル」と「タキストロンタフスリップタイプ」を張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じます。
- オープンタイムを取り過ぎて接着剤が乾き過ぎると、接着力が低下します。

<オープンタイムの目安(20℃)>

接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20～30分	40～50分
タキボンド#701	30～40分	50～70分
タキボンド#601	30～40分	60～70分



6. 張り付け・圧着

- 「タキロン点字タイル」と「タキストロンタフスリップ」継目の処理を「タキシール#600」で行う場合は仕上げ代として 3mm～5mm の隙間を確保してください。
- 点字タイルを張り付け後、**全体をハンドローラーで、凹部は手で**十分に圧着してください。
- 仮敷きした位置に「タキストロンタフスリップタイプ」を張り付けてください。
- 張り付け後、しごき圧着でエア抜きを十分に行ってください。

7. 継目処理

溶接工法

- 接着剤が完全に硬化してから溝切り機でシート厚みの 2/3 の深さでU字溝を設けてください。
- 熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら、溶接ビードができる程度に溶接してください。

<溶接条件の目安>

設定	アナログ	6～7
	デジタル	400～500℃
スピード	1～2m/分	

- 床溶接棒が冷えてから、余盛部をスパトラナイフなどで平滑に仕上げてください。

シール工法

養生が可能な場合は、「タキシール#600」を使用することも可能です。但し、以下につきまして十分に注意してください。

- 養生期間を 2～3 日間設けてください。
- 「タキシール#600」の仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。
- 仕上がりを美しくするためにマスキングテープで養生してください。

- 継目に「タキシール#600」を塗布してください。
- 仕上げ用ヘラで平滑に仕上げてください。
- ヘラ仕上げ後直ちにマスキングテープを除去してください。

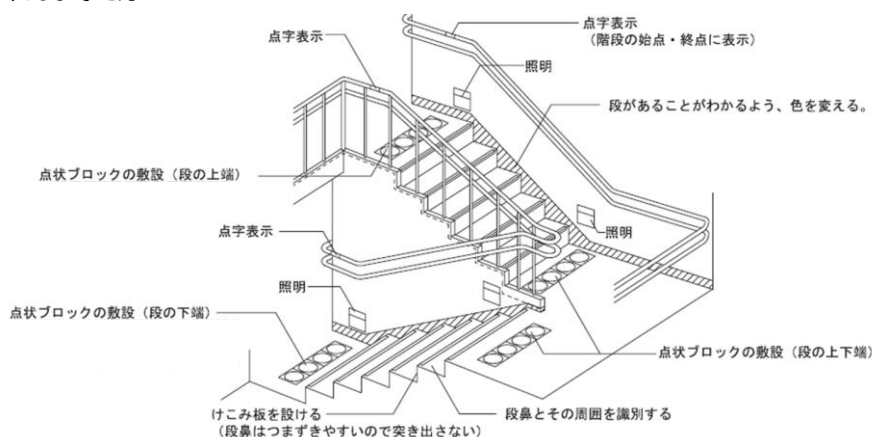
8. 清掃

- 残材・接着剤容器・梱包紙などを片付けてください。
- カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

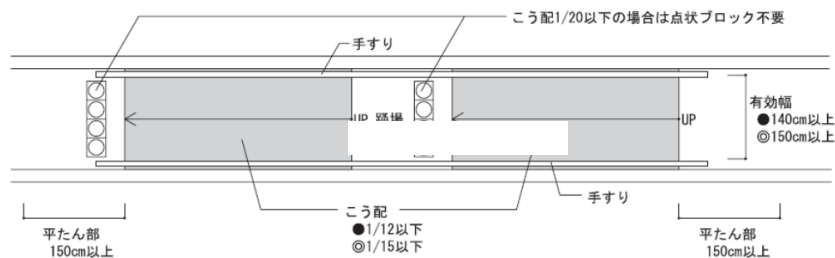
9. 養生

- 施工中及び接着剤が硬化するまでは、暖房などの急激な温度変化を与えないでください。
- 端部処理材が硬化するまで踏まないでください。(2～3日以上)
- 土足での歩行を控え、養生シートを敷いて汚さないようにしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤硬化後(1～2日)、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。

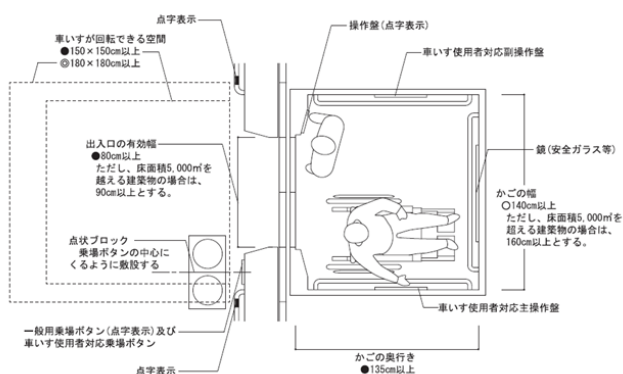
● 階段の基本的な考え方



● 傾斜路の仕様



● エレベーターの平面図



平成 21 年度 3 月版

東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアルより抜粋